

「急がば学べ：図書館の人材養成機関としての機能をフル活用しよう」

長谷川 豊祐（図書館笑顔プロジェクト代表・元鶴見大学図書館）

図書館員は、本を読み、学ぶことが習性になっています。その習性は、本がそばにあることと、学ぶために図書館を利用する住民や学生・教職員と触れ合うことによって、常に強化されています。本や図書館はその存在自体が人材育成のきっかけになります。そして何よりも、「学校」という学びの場は、教える側にとっても、教わる側にとっても学びの場になります。

近年の ICT の発達と大学の変動により、大学の心臓\*であり、活力の源である大学図書館の再構築が必要になっています。大学図書館について、この機会と一緒に考えてみましょう。

※神奈川県内の大学図書館における地域連携：図書館の活力の源と相互作用。神奈川県内大学図書館相互協力協議会会報。2014, 52, p. 1-3. <ファイルは <http://www.kanagawa-la.jp/>「大学図書館協力委員会から」の「会報」に掲載> ハーバード大学の学長 Charles William Eliot(1834-1926)は、1873/74 年の学長年次報告で“The Library is the heart of the University”（図書館は大学の心臓）と記している。

### 1. 図書館の三層構造は大学人にも役に立つ

図書館は、2階建住宅のように3層構造になっています。2階は応用部分で「交流、出会い、ひろば、にぎわい」、2階部分がメディアにも取り上げられます。通常部分（1階）は「蔵書、施設・設備、ひと」、1階部分は、無料貸本屋と揶揄され、誰でもできる単純な「ピッ」のスーパーのレジとされています。基礎部分（土台）の「図書館業務システム、図書館運営、図書館協力」は縁の下の力持ち、地味な1階を支え、その上の2階は居心地の良いサロンのようです。

応用部分 (2階)	交流, 出会い, ひろば, にぎわい
通常部分 (1階)	蔵書, 施設・設備, ひと
基礎部分 (土台)	図書館業務システム, 図書館運営, 図書館協力

〔図1：図書館の三層構造〕〔『図書館評論』no. 59 2018. 7 p. 57の図に追加〕

公立図書館と大学図書館の2つを合計した全国の蔵書数は7億5千万冊、貸出冊数は7億2千万冊、資料費は950億円となります。公立図書館の主要なサービスである貸出冊数は、6億9千万冊で2011年度をピークに減少に転じています。大学図書館の特徴的なサービスは文献複写です。

自分の大学で持っていない雑誌に掲載された必要な論文を、他大学からコピーで取寄せることができます。入手までに、3日から1週間を要し、費用は私費か公費で支払われます。現在は、電子ジャーナルの普及もあり近年減少傾向です。

資料費の内訳は、公立図書館では大半が図書費ですが、大学図書館では図書費・雑誌費・電子ジャーナルの比率は26%・21%・44%となっています。これは図書館の種類による

館種		公立図書館	大学図書館
蔵書	図書館数	3,260	1,424
	蔵書数(千冊)	440,995	323,595
	年間受入図書数(千冊)	16,348	4,617
	うち購入(千冊)	13,501	3,434
	新聞(千種)	37	
資料費	雑誌(千種)	372	722
	資料費(万円)	2,827,477	6,504,068
	うち図書費(万円)	2,131,804	1,692,515
	一冊単価	1,579	4,929
	うち雑誌・新聞費(万円)	375,354	1,385,917
図書館協力	うち視聴覚(万円)	108,358	
	うち電子Journal(万円)		2,839,166
	図書館相互協力(貸出)	2,379,360	
	図書貸借貸出冊数		113,783
	図書館相互協力(借受)	2,007,608	
	文献複写提供件数		596,633

〔表1：公立図書館と大学図書館の特徴〕〔括弧内は資料費に占める割合〕

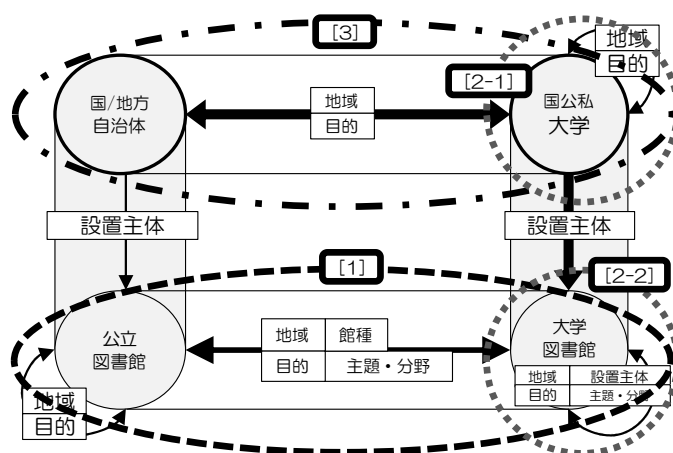
蔵書構成の違いを反映しています。大学図書館の蔵書は、公立図書館の主な蔵書が小説や実用書である点と異なり、論文やレポートを書く際に参考にする、専門書や学術雑誌で構成されます。図書の一冊の単価は、大学図書館は公立図書館の3倍以上で、専門書や洋書が多く購入されていることがわかります。また、論文のテーマによって検索しフルテキストを入手できる、電子ジャーナルやデータベースへの経費配分も多く、大学に在学・在職中は、自宅から休日の真夜中でも膨大な量の論文やデータにアクセスして、調査・研究に活用できます。

例えば、「JapanKnowledge」は、約50種類の辞書・事典類(現代用語の基礎知識、会社四季報、日本国語大辞典[502,607項目]、国史大辞典[65,877項目])が検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。聞蔵Ⅱビジュアル(朝日新聞)、ヨミダス歴史館(読売新聞)、日経テレコン21(日経新聞)などの新聞DBは、戦前から現在までの記事が検索可能で、フルテキストも入手できます。7月19日の読売新聞の「大学の實力」のデータも保存できます。試してみてください。

## 2. 図書館は外部協力とともに内部協力も推進しよう

図書館の協力構造は、図のように3つのエリアに分かれます。図・下部[1]は、設置主体が自治体と大学で異なる、公立図書館と大学図書館による、図書館同士の協力です。図・右側[2]は、国公私立大学間で利用対象を拡大して協力しています。

[2-2]は図書館同士の協力、[2-1]は図書館の設置主体である大学の協力です。[2-1]ができると[2-2]は必然です。図・上部[3]は、図書館の設置主体である自治体と大学が協力することで、必然的に図書館同士が協力します。一番大規模な協力です。他大学や他自治体との連携・協力は、図書館に組み込まれたDNAと言えます。



(図2: 図書館の協力構造)

図書館1階部分の「蔵書、施設・設備、ひと」は、大学にとっての知的資源です。教員と学生が調査研究やレポートのために活用しています。しかし、大学職員は知的資源としての図書館の価値と有効性に気付かず、図書館員は職員向けサービスを疎かにしています。それは公立図書館でも同様の構造で、自治体職員も含めた住民は、公立図書館機能の一部しか使っていませんし、図書館司書も図書館本来の機能を展開していません。

大学の構成員ならば、職場の大学図書館を活用して業務に活かすべきですし、情報サービスの専門家である図書館員ならば、図書館の未利用者を自分たちの知的資源に引き込むべきです。

『大学事典』(平凡社 2018 p. 592-593)にもグラフが掲載されていますが、大学における「専門的職員」の配置状況をみると、全体平均50%を超えているのは「学生の健康管理」「図書」「就職・キャリア形成支援」いずれも司書やキャリアカウンセラーをはじめ、有資格者の配置が多くなっています[図3]。

また、今後配置したい職務で特に重要と考える専門的職員は、10%以上では「インスティテューショナル・リサーチ(IR)」、「執行部補佐」、「地域連携」があがっています[図4]。

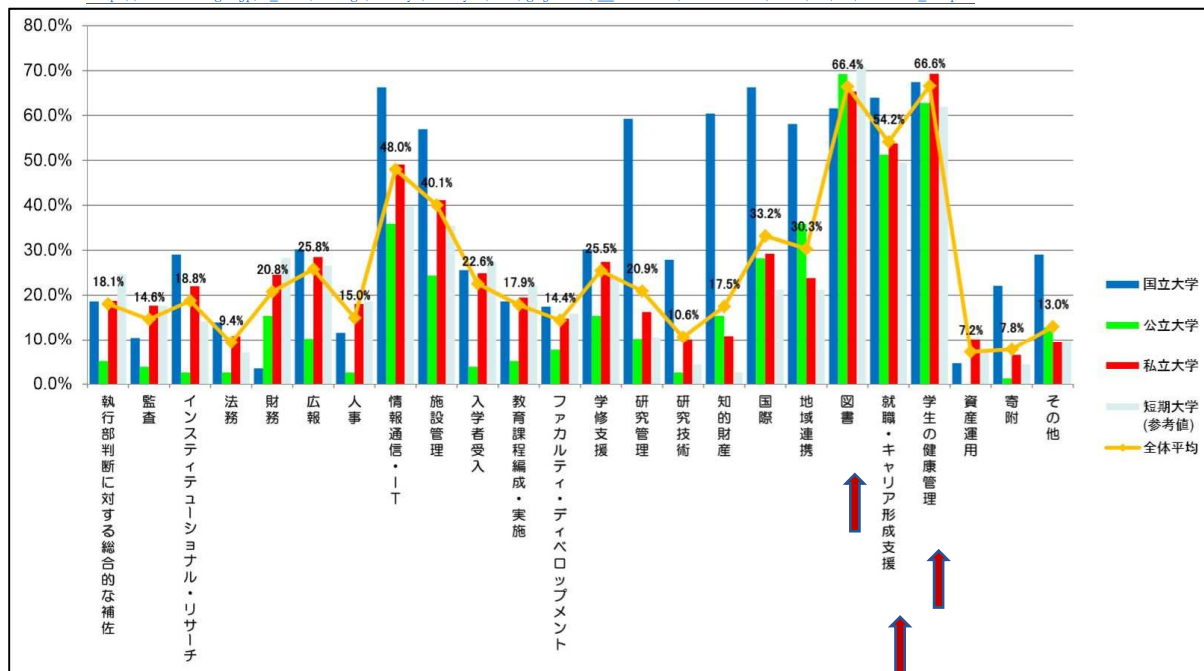
「図書」\*は重要と考えられていませんが、学びのサポートは高等教育サービスの土台部分に相当します。過去の蓄積が膨大な図書館においては、配置を短期的に「重要な職務」から外しても大きな問題は生じません。何よりも業務システムの標準化により、蔵書と施設があれば最低限の

機能を発揮します。しかし、ヒトの配置を怠れば、これまでの実践知ともいえる人的蓄積が途絶し、教育における学びの土台が弱体化し、長期的には取り返しのつかないことになります。

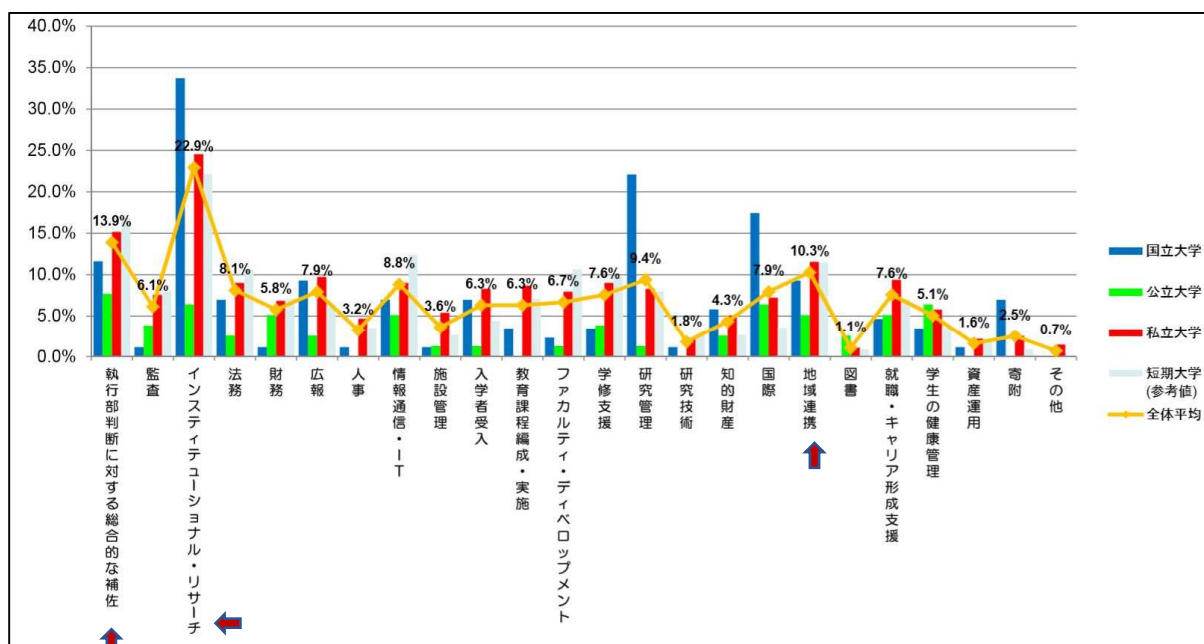
といっても、良質な図書館とその利用は、好成绩と相関関係はあるものの、因果関係はないと思われます。そもそも優秀な学生は、図書館を利用しなくても成績が良く、一人で本を読み、友人とのグループでレポートの打合せなど、様々なシーンで図書館も良く利用するからです。

※「専門的職員」とは、調査票に掲げる24の職務について、当該職務に関する個人の高い専門性に着目して配置され、当該職務を主に担当している(複数の職務を担当している場合はエフォート率が概ね5割以上)大学職員。「図書」とは、大学の図書館を中心とした学術情報の活用や管理に関する職務を指す。具体的な職名として、図書館司書等が想定。

- 1) 「大学における専門的職員の活用の実態把握に関する調査研究」報告書  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/itaku/\\_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371456\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1371456_01.pdf)
- 2) Between 情報サイト <http://between.shinken-ad.co.jp/>「大学における専門的職員の活用の実態把握に関する調査」(文部科学省が実施、2015年9月14日から10月2日までに全国の大学・短大559校から回答)  
<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2016/02/post-11.html>
- 3) 「大学における専門的職員の活用の実態把握に関する調査」の結果概要(資料1-1 中央教育審議会大学分科会 大学教育部会(第41回) H28.1.18)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyod4/015/gijiroku/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/25/1366190\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyod4/015/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/01/25/1366190_01.pdf)



(図3：専門的職員※の配置状況)



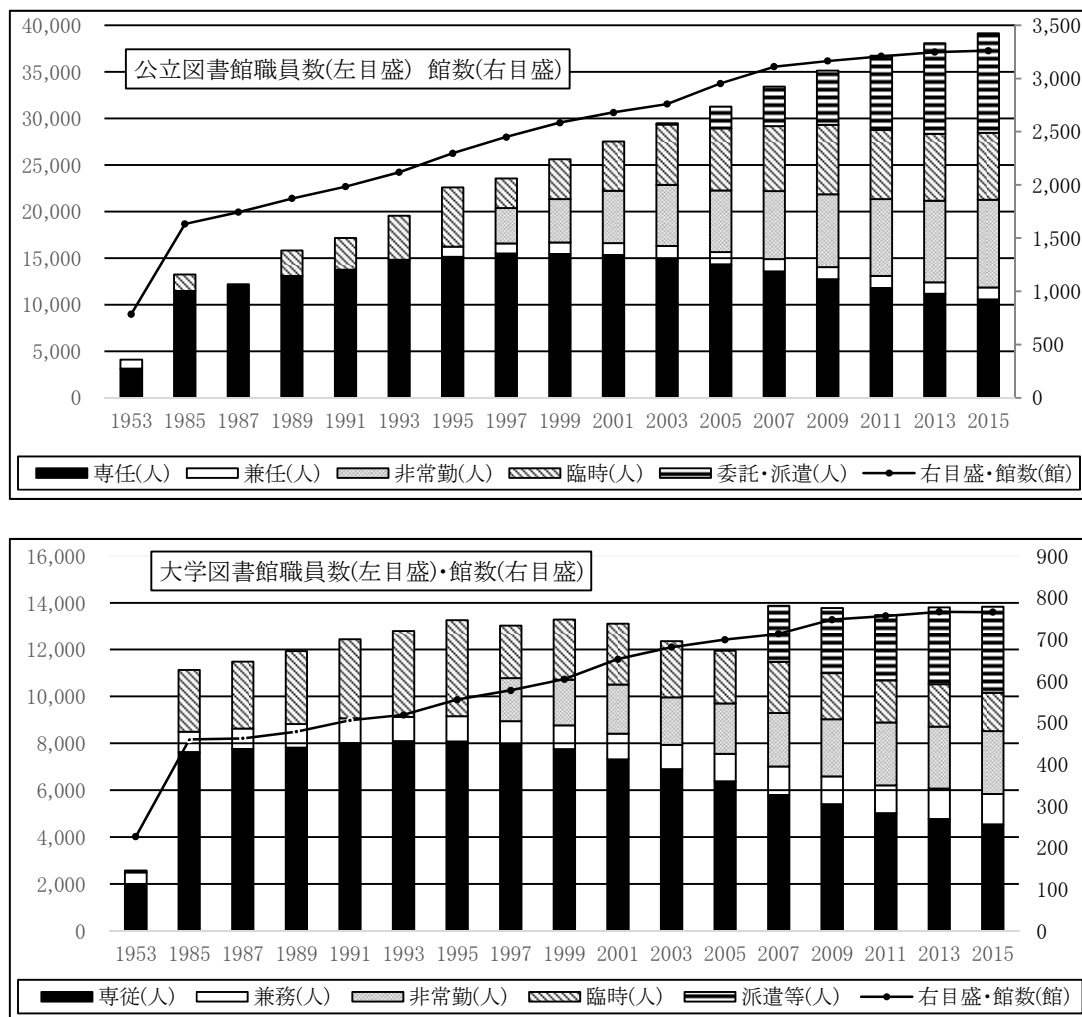
(図4：今後配置したい職務で特に重要と考える専門的職員※)

図書館員の減少傾向は公立図書館も大学図書館も同じです。

公立図書館と大学図書館について図書館数と専任職員数は、1990年代後半までは一貫して増加傾向でしたが、その後は減少に転じています。「専任職員」は、公立図書館における図書館以外の職務を本務とする兼任職員と、大学図書館における図書館以外の職務を兼ねる兼務職員を含み、いわゆる正規職員です。「非専任職員」は、一年契約の嘱託などの非常勤職員と、パートやアルバイトの臨時職員です。「委託・派遣」では、業務委託を受注した事業者や指定管理者に雇用された者が、委託契約や派遣契約に基づいて図書館業務を行います。

国や自治体では、1960年代から人件費を抑えようとする動きがあり、国立大学では1967年の国家公務員の総定員法によって定数は抑制されてきました。1990年代からの景気の低迷の中で、経費削減の一環として、広い分野で人件費の圧縮が行われてきました。自治体や大学も例外ではなく、専任職員を非専任職員へ転換することにより、委託費で人数を確保しながら、人件費を削減する方策(人件費から運営費への転換)が採られてきました。

結果的に、他の職種と比べて配置人数の多かった図書館では、専任職員は減少し、非常勤、臨時、派遣、委託などの非専任職員の構成比が公立図書館では6割、大学図書館では5割を超えています。



(図5：公立図書館と大学図書館の図書館数と雇用形態別職員数の推移)  
[『図書館情報学 第二版』勁草書房 2017 (p. 257-260)]

図書館の機能が正確に認識されないのには理由があります。図書館を建物として管理し、単に閲覧席と貸出を提供すれば十分であるとの認識が主流であり、また、専任職員が新たなサービスに一步踏み出さなかったことが背景にあります。以下のヒトにフォーカスした解説[柳与志夫. 解

説一公共図書館を知之の広場にするために、アントネッラ・アンニョリ『知之の広場：図書館と自由』みすず書房 p.233-251]で、「自治体」や「公共」を「大学」に、「利用者」を「学生・教職員」置き換えると、図書館の実態と、設置主体である大学の実態も見えてみます。

自治体が昔から保有している土地や諸施設は、好立地で最大の経営資産となる。しかし、まずは保管・管理する対象であり、価値に見合った活用をこれまで十分やってきたとは言い難い。例えば、朝9時から夕方7時まで開館している駅前図書館の残りの14時間は空いている。会議スペースやライブラリーカフェなど、空き時間の活用も可能である。これは、多くの公共施設にも当てはまる。・・・レストランでもショップでも、いい店に入った途端にわかるはずだ。店員がただの作り笑いではなく、ほんとうに楽しそうな顔をしていて、店全体の雰囲気生き生きしている店にはずれはない。それは偶然できることではなく、内装や家具の配置、カラーコーディネート、店員の訓練ややりがいなど様々な経営努力のたまものなのである。千代田図書館で実現したかったのも、利用者や図書館員の生き生きとした知的活動を促進するような空間を構成することだった。・・・地域の文化情報資源の発見・発掘・創造と発信[これこそ、情報リテラシーそのもの]へと、図書館が一步踏み出して、中心になってもおかしくないはず。・・・公共的な「(物理的)場所と(精神的)場」を生かしていくための最大の要因は、資料でも財源でもない。地域の文化情報資源に愛着を持ち、それを生かしていける人材の確保にほとんどがかかっている。モノ(資料の収集・利用)志向の従来の司書ではなく、ヒト(知の世界の様々な関係者とのネットワークづくり)志向の新しい専門職の形成が必要なことを意味している。このような新しい専門職確保の必要性は、地方行政のほとんどの分野で同じだと思う。「何でもひととおりにこなせる」公務員ではなく、教育、福祉、土木、都市計画等々の「特定分野で」関連する公的機関・企業・NPO・自営業者を横断して連携させていく専門性と交渉力が公務員に求められている。

ヒトに注目し、図書館という経営資産の機能を展開する余地があり、それは、連携と交渉力があると、柳は指摘し、「文化情報資源の発見・発掘・創造と発信へと、図書館が一步踏み出して、中心になってもおかしくない」としています。

### 3. 大学職員向け主題ガイドを公開しよう

米国には連絡調整図書館員ともいべきサブジェクトライブラリアン\*がいます。

※田中あずさ『サブジェクト・ライブラリアン：海の向こうアメリカの学術図書館の仕事』（笠間書院 2017 220p.）


LibGuides(リブガイド)< <https://community.libguides.com/> >というシステムは、591,630件の主題ガイドが、58ヶ国 4,758館の図書館の、160,740人の図書館員によって公開されています。特定のテーマに沿った情報探索ガイドの作成・提供するウェブ上のサービスで、DBやWebサイトなどの電子リソースへのリンクや、参考図書・雑誌タイトル等の紙媒体資料の解説付きリストをまとめたWebページです。特定のテーマや授業に対応した情報への資料やDBを案内しています。

日本では10館程度が導入してるだけで、全く普及していません。以下が国内での導入館です。

- ・ 神田外国語大学附属図書館 <http://kuis.libguides.com/home>
- ・ 慶應義塾大学メディアセンター※ <http://libguides.lib.keio.ac.jp/>
- ・ 関西大学図書館 <http://kansai-u.libguides.com/>
- ・ 神戸大学図書館 <http://kobe-u.libguides.com/>
- ・ 島根大学図書館 <http://shimaneuniv.libguides.com/index.php>
- ・ 九州大学附属図書館 <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/>

今回は、大学職員向け主題ガイドを試作してみました。

高等教育関連の事典, 図書, 雑誌	
事典	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『大学事典』(平凡社 2018)テーマ編 48 項目は 4 つに分類, 1) 大学が直面する課題, 2) 大学と社会の関係, 3) 大学の組織と機能, 4) 世界の大学の歴史と現状。項目編は, 用語・固有名詞 1,000 項目と, 国内の大学(4 年制大学を網羅)と世界の主要大学の 1,000 項目を収録。索引は 12,000 項目, 執筆者 202 名による書下ろし。</li> </ul>
図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 牟田博光『変わる大学と社会』(放送大学 1999)</li> <li>● 館昭;岩永雅也『岐路に立つ大学』(放送大学 2004)</li> <li>● 高等教育研究会編集. 大学審議会全 28 答申・報告集: 大学審議会 14 年間の活動の軌跡と大学改革. ぎょうせい, 2002, 489p. 旧大学審議会答申, 答申を受けての改革状況, 審議経過等を掲載し, 答申の全体を俯瞰できる資料集</li> <li>● 学制百年史 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm</a></li> <li>● 学制百年史資料編 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317930.htm</a></li> <li>● 学制百二十年史 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318221.htm</a></li> <li>● 文部科学白書(H13-) <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/monbu.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/monbu.htm</a></li> <li>● 教育白書(S28-H12 以降「文部科学白書」) <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kyouiku.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/kyouiku.htm</a></li> </ul>
雑誌	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 『Between』(進研アド, -1999-, 所蔵数不明, オープンアクセス <a href="http://between.shinken-ad.co.jp/between/">http://between.shinken-ad.co.jp/between/</a>)</li> <li>● 『大学・短期大学・専修学校のためのリクルートカレッジマネジメント』(リクルート, 1983-, 所蔵 96 館)</li> <li>● CHIeru.WebMagazine: 学校現場の ICT 活性化マガジン <a href="http://www.chieru-magazine.net/">http://www.chieru-magazine.net/</a></li> <li>● 『大学と教育』(東海高等教育研究所, 1991-2009, 所蔵 46 館) 執筆: 今日からはじめる現職者教育(no. 34 2003) <a href="http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/projects/tokaiken/paper/separate/34/34-07.pdf">http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/projects/tokaiken/paper/separate/34/34-07.pdf</a></li> <li>● 『IDE: 現代の高等教育』(民主教育協会, 1961-, 所蔵 386 館)</li> <li>● 『大学創造』(高等教育研究会, 1994-2016, 所蔵 27 館)</li> <li>● 『大学創造. 別冊, 大学職員ジャーナル』(高等教育研究会, 1996-2016, 所蔵 9 館)</li> <li>● ALPS ブックレットシリーズ 2: 新しい専門的の大学職員に求められる教育・学修支援の専門職性とその養成 <a href="https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/104353/booklet_vol2.pdf">https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/104353/booklet_vol2.pdf</a></li> <li>● 「私立大学等改革総合支援事業」にみる私学助成の現状 <a href="http://www.chieru-magazine.net/magazine/entry-15558.html">http://www.chieru-magazine.net/magazine/entry-15558.html</a> 平成 27 年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業ではアクティブラーニングでの採択が多い</li> </ul>
↓ 資料	
調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校基本調査 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm</a></li> <li>● 社会教育調査 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/index.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/index.htm</a></li> <li>● 学術情報基盤実態調査 (旧大学図書館実態調査) <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/jouhoukiban/1266792.htm</a></li> <li>● 大学ポートレート【教育情報の公開】 <a href="http://top.univ-info.niad.ac.jp/">http://top.univ-info.niad.ac.jp/</a></li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等教育問題研究会・フミックス(FMICS) 『BIG EGG』(月刊)</li> <li>● 大学行政管理学会 <a href="https://juam.jp">https://juam.jp</a> 『大学行政管理学会誌』(年刊, 1997-, 所蔵 182 館)</li> <li>● 日本高等教育学会 <a href="http://www.gakkai.ne.jp/jaher/">http://www.gakkai.ne.jp/jaher/</a> 『高等教育研究』(年刊, 1998-, 所蔵 46 館)</li> <li>● 大学教育学会 <a href="http://daigakukyoiku-gakkai.org/">http://daigakukyoiku-gakkai.org/</a> 『大学教育学会誌』(年 2 回刊, 1980-, 所蔵 169 館)</li> <li>● 『RIHE: 高等教育研究叢書』(広島大学大学教育研究センター, 1990-, 所蔵 68 館, オープンアクセス <a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/journal/RIHE/">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/ja/journal/RIHE/</a>)</li> </ul>
blog	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学職員の書き散らかし BLOG <a href="http://kakichirashi.hatenadiary.jp/">http://kakichirashi.hatenadiary.jp/</a></li> <li>● 大学アドミニストレーターを目指す大学職員のブログ <a href="https://www.daigaku23.com/">https://www.daigaku23.com/</a></li> <li>● 大学職員のそこが知りたい <a href="https://shokuinblog.com/edu/politics/829/">https://shokuinblog.com/edu/politics/829/</a></li> <li>● 大学職員 2.0 <a href="https://setapapa.net/20160223/">https://setapapa.net/20160223/</a></li> <li>● 大学の片隅で事務職員がさけぶ <a href="http://dai-staff.hatenablog.com/entry/2016/01/12/225924-2016/03/29">http://dai-staff.hatenablog.com/entry/2016/01/12/225924-2016/03/29</a></li> </ul>
↓ 資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大学職員の書き散らかし BLOG 2018-02-05 平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業(タイプ 5)の採択結果から考える採択・不採択の分かれ目 <a href="http://kakichirashi.hatenadiary.jp/entry/2018/02/05/213817">http://kakichirashi.hatenadiary.jp/entry/2018/02/05/213817</a> ● 学校基本調査の各種データをグラフ化 <a href="http://gakkodataview.web.fc2.com/index.html">http://gakkodataview.web.fc2.com/index.html</a> これはどうやって作るのだろう? データを自動でとってきて自動生成しているのだろうか?</li> <li>● 大学における新しい専門職に関する研究 関連サイト <a href="https://sites.google.com/view/thirdspace/%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88">https://sites.google.com/view/thirdspace/%E9%96%A2%E9%80%A3%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%83%88</a></li> <li>● 受験ネット <a href="http://xn--uor874n.net/nyushi-keiei112daigaku-2989">http://xn--uor874n.net/nyushi-keiei112daigaku-2989</a> 経営難の私大 112 法人 大学名を読売新聞は公表? 2017/12/31</li> </ul>

関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内閣府 &gt; 経済財政諮問会議(議長 内閣総理大臣) &gt; 重点課題 &gt; 教育再生 <a href="http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/important/kyouiku.html">http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/important/kyouiku.html</a></li> <li>● 文部科学省 &gt; 中央教育審議会 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/index.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/index.htm</a> &gt; 大学分科会 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/index.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/index.htm</a></li> <li>● 日本私立学校振興・共済事業団 私学振興事業本部 <a href="http://www.shigaku.go.jp/s_home.htm">http://www.shigaku.go.jp/s_home.htm</a> 「私立大学等経常費補助金 学校別交付額一覧」など <a href="http://www.shigaku.go.jp/s_hojo_h28.htm">http://www.shigaku.go.jp/s_hojo_h28.htm</a></li> <li>● 日本私立大学連盟 <a href="http://www.shidairen.or.jp/">http://www.shidairen.or.jp/</a> 『大学時報』(2009年からオープンアクセス <a href="https://daigakujihou.shidairen.or.jp/">https://daigakujihou.shidairen.or.jp/</a>) 5月号は共立女子大学, 近畿大学, 京都女子大学, 立命館大学, 常磐大学, 千葉大学で「特集: 大学図書館最新事情」, 資料・報告書(加盟大学財務状況の推移(平成9年度~平成28年度)など)も充実</li> <li>● 日本私立大学協会 <a href="https://www.shidaikyo.or.jp/">https://www.shidaikyo.or.jp/</a> 「教育学術新聞」のコラム「アルカディア学報」の公開 <a href="https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/">https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/</a> や, 研究成果の公開 <a href="https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/book/">https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/book/</a>, 「科学研究費補助金 学校別交付額一覧」</li> <li>● 公益社団法人私立大学情報教育協会(私情協) <a href="http://www.juce.jp/gaiyo/index.html">http://www.juce.jp/gaiyo/index.html</a> 『大学教育と情報』()</li> </ul>
↓ 資料	<p>経済財政諮問会議の教育再生の資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口減少下での質の高い教育政策の推進に向けて <a href="http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_03-1.pdf">http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_03-1.pdf</a> <a href="http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_03-2.pdf">http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_03-2.pdf</a></li> <li>● 教育分野における経済財政一体改革の取組について <a href="http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_04.pdf">http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2018/0424/shiryō_04.pdf</a> (p.9) 大学改革に向けた資金配分: 国立大学法人運営費交付金等, 私学助成(「私立大学等改革総合支援事業」を展開することにより、改革意欲のある私立大学等の教育の質的転換に係る取組を促してきたところ→私立大学全体の質保証に向け、調査研究を踏まえ、教育の質に係る客観的指標をH31から本格実施(H30に先行導入)), 私大の公立化</li> <li>● 平成30年6月15日「経済財政運営と改革の基本方針2018~少子高齢化の克服による持続的な成長経路の実現~」(骨太方針) <a href="http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2018/2018_basicpolicies_ja.pdf">http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2018/2018_basicpolicies_ja.pdf</a></li> </ul> <p>中央教育審議会の資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等教育の将来構想に関する基礎データ平成29年4月11日 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/04/13/1384455_02_1.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/04/13/1384455_02_1.pdf</a> 人口と学校数の推移などのデータ, 進学者数の推移, 私立大学における入学定員充足率の推移, 地域別も</li> <li>● 参考資料1 高等教育の将来構想に関する参考資料1/3 平成29年7月3日 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/07/05/1387687_12.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/07/05/1387687_12.pdf</a></li> <li>● 参考資料 高等教育の将来構想に関する参考資料2/2 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/10/27/1397784_15_1.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2017/10/27/1397784_15_1.pdf</a></li> <li>● 参考資料 高等教育の将来構想に関する参考資料 平成30年3月27日 49p. <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2018/03/30/1403109_13.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2018/03/30/1403109_13.pdf</a></li> <li>● (資料3-6) 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/069/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/08/1371868_7.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/069/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2016/06/08/1371868_7.pdf</a> 18歳人口は、平成21~32年頃までほぼ横ばいで推移するが、33年頃から再び減少することが予測されている。Google”18歳人口の将来推計2017 文科省”</li> </ul>
検索	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <a href="http://toyohiro.org/opac+/opacplus.html">http://toyohiro.org/opac+/opacplus.html</a> CiNii(サイニイ), GoogleScholar(グーグルスカラー), J-STAGE(ジェイステージ), JAIRO(ジャイロ)などの検索サイトから、検索語を一度だけ入力して、雑誌や大学紀要に掲載された論文を検索します。自分の持っている雑誌論文のタイトルや図書のタイトルを検索語にすれば、全文を入手し、新たな検索語を発見し、検索の範囲も広げることができます。例えば「畳の文化についての一考察」という論文を起点に、「畳 文化」で検索すると、<a href="#">このよう</a>になります。興味対象をWikipediaで予備調査して、関連の検索語を拾うのも良いでしょう。 <a href="http://toyohiro.org/opac+/opacplus.html?WORD=%E7%95%B3%E3%80%80%E6%96%87%E5%8C%96&amp;TARGET=0">http://toyohiro.org/opac+/opacplus.html?WORD=%E7%95%B3%E3%80%80%E6%96%87%E5%8C%96&amp;TARGET=0</a></li> </ul> 

#### 4. 大学職員は学生や教職員よりも情報リテラシーを磨こう

- 全国の公立図書館、大学図書館、専門図書館が蓄積してきた図書や雑誌などの蔵書の価値を見える化すること
- インターネット上に公開されている情報の活用方法と活用の効果を伝えること
- 紙媒体と電子媒体の二つを結合して届けること
- 見える化して、伝えて、届けるには情報リテラシーが必要

#### 5. おわりに：図書館活用への道：「アイデア集約」のグループワーク

「図書館の有効性」と「図書館、こうすれば良くなる」を話し合っ一本にまとめる。




累乗型対話プログラム (OTM 方式)：ビッグバン・ヌマ株式会社 沼田真一さん開発  
<https://www.facebook.com/shinichi.numata.98>

メモ

本日の資料と GW の結果は、<http://toyohiro.org/fmics20180720.html> に公開します。



『大学事典』(平凡社 2018)における図書館関連の独立項目と索引項目(用語・固有名詞 1,000 項目, 国内の大学(4年制大学を網羅)と世界の主要大学 1,000 項目, 索引 12,000 項目)

独立項目として 21 項目 (用語 1,000 項目の 2%)	索引として 41 項目 (用語 1,000 項目の 4%)
アーカイブズ アクティブ・ラーニング 印刷術 インパクトファクター 引用数 学術雑誌 グレート・ブックス 研究資源 情報社会と大学 情報の越境 情報リテラシー教育 正本と著作権 大学出版会 大学図書館 大学図書館間相互利用 大学博物館 電子ジャーナル/電子書籍 電子図書館 読書 図書館員 明六雑誌 ラーニングコモンズ   (用語・固有名詞 1,000 項目, 国内の大学(4年制大学を網羅) と世界の主要大学 1,000 項目, 索引 12,000 項目)	アメリカ図書館協会 > 図書館員 NPM > 88a, 225a, 225b, 618b, 619a, 649b, 692a オックスフォード大学図書館 > 大学図書館 京都大学電子図書館 > 電子図書館 KL-NET > 大学図書館間相互利用 高度化情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 > 203b 国立国会図書館 > 電子図書館 国立情報学研究所 > 機関リポジトリ, 研究資源, 大学図書館相互利用 サイエンスダイレクト > 電子ジャーナル/電子書籍 サイテーション・インデックス > 引用数 サイニイ(CiNii) > 研究資源 SINET(日本) > 大学図書館相互利用 CAS(アメリカ) > 研究資源 JST > 科学技術振興機構 J-STAGE > 科学技術振興機構 司書 > 図書館員 修道院図書館 > 大学図書館 主題専門図書館員(アメリカ) > 図書館員 CERN > 研究資源 挿絵(印刷術) > 印刷術 ソーシャルメディア > ソーシャルメディアと大学 著作権 > 印刷術 データ共有サイト > 情報の越境 データベース > 情報の越境 電子化資料 > 電子図書館 電子ジャーナル > 研究資源 電子書籍 > 電子ジャーナル/電子書籍 総合的デジタル通信網 > 情報化社会と大学 図書館 > 大学図書館 図書館情報大学 > 筑波大学 図書館専門職員 > 図書館員 図書室 > 604a 著作権 > 507a 剽窃 > 400b 附属施設 > 291a 文書館 > アーカイブズ 見えざる大学 > 24a 大学と研究 MEDLINE > 391a 研究資源 山手線沿線私立大学コンソーシアム > 605a 揺籃期本 > 印刷術 論文検索用データベース > 研究資源